

## 第13回「成果の発表(1)」

### 今後のスケジュール

第13回 (2013-07-03)	自分のレポートを作成して、添削を受ける
第14回 (2013-07-10)	レポートを提出する、プレゼンテーションを練習する
第15回 (2013-07-17)	最終のプレゼンテーションをする、内容をお互いに評価する

### インターネットを利用して関連資料を探す

#### 資料を探すときの方針

1. テーマに関する全体的な知識や動向を調べる
2. テーマに関する基礎的な知識や専門用語などを調べる
3. テーマに関する最新の知識や動向を調べる
4. テーマに関連する他の分野の知識や情報を調べる

探した情報は、どこにある情報かを記録して、コピーまたは印刷して保存しておきましょう。

- ネット上の情報は「お気に入り」に追加しておき、印刷もする
- 図書・文献は、コピーをしたり「文献メモ」を作成しておく

#### 資料を探すときの注意点

- インターネット上の情報に頼りすぎない
  - インターネット上には膨大な情報がありますが、信頼性が高く内容も正確な情報から、間違っていたり無責任に書かれた情報まで、玉石混淆の状態。
  - できるだけ、書籍や新聞、学術論文などで裏付けを取るようになる
- 集めた情報のほとんどはレポートを書くのに直接は使えない
  - 多くの情報を調べても、そのすべてをレポートに書けるとは限らない
  - 集めること自体が無意味なわけではなく、書くために必要な基礎的な知識となる

#### ネットを使って探す（公的情報源、白書、統計資料など）

- 情報通信白書（総務省：<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/>）
- 統計調査結果（e-Gov 電子政府の総合窓口：<http://www.e-gov.go.jp/link/statistics.html>）
- サイバー犯罪対策（警察庁：<http://www.npa.go.jp/cyber/>）
- ハイテク対策（警視庁：<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/haiteku/>）
- 情報セキュリティ（情報処理推進機構：<http://www.ipa.go.jp/security/>）
- インターネットホットライン連絡協議会（<http://www.iajapan.org/hotline/>）

#### ネットを使って探す（専門に関する情報）

- INETERNET Watch（インプレス：<http://internet.watch.impress.co.jp/>）
- ネット・ウィルス情報（asahi.com：<http://www.asahi.com/digital/internet/>）
- ネット＆デジタル（YOMIURI ONLINE：<http://www.yomiuri.co.jp/net/security/>）
- デジタル（日経トレンドネット：<http://trendy.nikkeibp.co.jp/digital/>）

#### ネットを使って探す（文献情報など）

- 文献の題目・著者・本文などで検索
  - CiNii 論文情報ナビゲータ（国立情報学研究所：<http://ci.nii.ac.jp/ja>）

- Google Scholar (Google: <http://scholar.google.co.jp/> )
- OPAC(蔵書カタログ)の検索
  - 大学のOPAC (兵庫大学: <http://media.hyogo-dai.ac.jp/lib/> )
  - Webcat plus (国立情報学研究所: <http://webcatplus.nii.ac.jp/> )
  - NDL-OPAC (国立国会図書館: <http://opac.ndl.go.jp/> )
- 電子ジャーナル
  - J-STAGE (科学技術振興機構: <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja> )
  - ScienceDirect (エルゼビア: <http://www.sciencedirect.com/> )

## 引用のしかた

「引用」とは、レポートや論文のなかで自分の意見を明確にするために、他の文献の意見や考えを紹介することです。

引用で一番注意すべきことは、**どの部分が引用なのか**をわかるように書くことです。**他人の意見を自分の意見のように書く**ことは、他人の文章を盗んで自分のものとして発表する「盗作」、いわゆる「**剽窃**」は絶対に行ってはいけません。

また、引用だけで自分の意見を述べるのではなく、引用は必要最低限にとどめて書くことも大事です。

1. 要約して引用: 必要かつ十分な長さで要約する
2. 短い引用(2行以内): 引用文をカギカッコ(「」)でくくる

安田(1997)は、人々から組織の関係をとらえるのに「現象から記号(すなわち)モデルを投資するような柔軟性を備えなければならない」と述べている。

3. 長い引用(3行以上): 引用文の前後に1行空けて、左側を2~3文字分下げする

安田は、『ネットワーク分析』のなかで、次のように述べている(安田 1997)。

言葉をかえて言うならば、「行為者の行為を、個人的な属性からではなく、その行為者を取り囲むネットワークによって説明する」ための分析をおこなうのが、ネットワーク分析です。

つまり.....

なお、2番目や3番目のような引用では、元の文章と一字一句正確することが大事で、勝手に加筆・訂正してはいけません。

引用するときは必ず、(次に説明する)どの参考文献から引用したかがわかるように、「河野(2009)は」「河野(2009)によれば」や「...である(河野, 2009)。」のように著者の名字と発行年(出版年)を書いて、引用元を明らかにします。

## 参考文献の示し方

引用したり参考にした資料・文献があれば、その出典(情報の出所)を「**参考文献**」として書きだしておきます。

なお、参考文献として示すのに必要な情報は、書籍の場合は奥付(巻末の著者・出版社などの情報が書かれた部分)に、論文や記事の場合は余白部分などに書かれています。

1. 単行本(単著、共著)
  - 書式: 著者名(出版年)『書名』, 出版社.
  - 例: 安田雪(2001)『実践ネットワーク分析』, 新曜社.
  - 例: 増田直紀・今野紀雄(2005)『複雑ネットワークの科学』, 産業図書.

## 2. 単行本(編著)

○書式:編著者(出版年)『書名』,出版社。

■例:佐藤嘉倫・平松閣編(2005)『ネットワーク・ダイナミクス』,勁草書房。

## 3. 翻訳書

○書式:原著者名(出版年)『書名』,翻訳者名,出版社。

■例:アルバート＝ラズロ・バラバン(2002)『新ネットワーク思考』,青木薫訳,NHK出版。

## 4. 学術雑誌の論文・記事

○書式:著者名(発行年)「論文名・記事タイトル」『雑誌名』,巻・号,ページ。

■例:中山洋・大和雅俊・山口正二・玉田和恵・松田稔樹(2007)「情報ののぞき見を題材とした情報モラル指導教材へのVRの活用に向けた実験的研究」『教育システム情報学会誌』,Vol.24 No.1, pp. 26-34。

## 5. インターネット上の情報

○書式:著者名または発行者名「ウェブページの題名」,URL(参照 閲覧した西暦での日付)。

■例:総務省「平成24年度 情報通信白書」,<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h24.html> (参照 2013年7月3日)。

## 6. 新聞・雑誌の記事

○掲載紙(紙)名(発行年)「記事の題名」発行日時 朝刊・夕刊と面数。

■例:朝日新聞(2013)「指先から学びを開く 無料オンライン講座、世界の大学が次々」2013年6月3日 朝刊3面。

参考文献のリストを書くときには、次のことに注意してください。

- 複数の参考文献を書くときは、著者名・名字のアルファベット順に並べる
- 同じ著者で、同じ発行年(出版年)の文献を挙げる場合は、発行年の後に a、bとアルファベットを追記しておく
- 参考文献の示し方には、分野や年代によって書き方の違いがあること(ただし、何を書くかはだいたい同じ)

## 参考文献

- 科学技術振興機構「参考文献の役割と書き方 科学技術情報流通技術基準(SIST)の活用」,  
[http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST\\_booklet2011.pdf](http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf) (参照 2013-07-01).
- 藤田哲也編著「大学基礎講座 改増版」,北大路書房(2006.03)
- 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」,北樹出版(2011.04)
- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」,くろしお出版(2011.03)
- 佐藤望編著,湯川武,横山千晶,近藤明彦「アカデミック・スキルズ」,慶応義塾大学出版会(2006.10).
- 小笠原喜博「大学生のためのレポート・論文術」(講談社現代新書 1603),講談社(2002.04).
- 泉忠司「90分でコツがわかる!『論文&レポート』の書き方」,青春出版社(2009.07).